

SPring-8 運転・利用状況

公益財団法人高輝度光科学研究センター
研究調整部

◎平成27年4～6月の運転・利用実績

SPring-8は4月2日から4月24日までセベラルバンチ運転で第1サイクルの運転を行い、5月6日から6月6日までセベラルバンチ運転で第2サイクルの運転を実施した。第1～2サイクルではFCSコントローラの故障によるビームアポート等があったが、全体としては順調な運転であった。総放射光利用運転時間（ユーザータイム）内での故障等による停止時間（down time）は、第1サイクルは約0.4%、第2サイクルは約0.7%であった。

放射光利用実績（いずれも暫定値）については、実施された共同利用研究の実験数は、第1サイクルは合計184件、利用研究者は818名で、専用施設利用研究の実験数は合計143件、利用研究者は554名であった。第2サイクルは合計329件、利用研究者は1,457名で、専用施設利用研究の実験数は合計258件、利用研究者は1,006名であった。

1. 装置運転関係

(1) 運転期間

第1サイクル（4/2（木）～4/24（金））

第2サイクル（5/6（水）～6/6（土））

(2) 運転時間の内訳

第1サイクル

運転時間総計 約526時間

①装置の調整およびマシンスタディ等
約118時間

②放射光利用運転時間 約406時間

③故障等による down time 約2時間

総放射光利用運転時間（ユーザータイム＝②＋③）
に対する down time の割合 約0.4%

第2サイクル

運転時間総計 約744時間

①装置の調整およびマシンスタディ等
約48時間

②放射光利用運転時間 約690時間

③故障等による down time 約6時間

総放射光利用運転時間（ユーザータイム＝②＋③）
に対する down time の割合 約0.7%

(3) 運転スペック等

第1サイクル（セベラルバンチ運転）

- ・ 203 bunches
- ・ 2/29-filling + 26 bunches

第2サイクル（セベラルバンチ運転）

- ・ 1/7-filling + 5 bunches
- ・ 11 bunch train × 29
- ・ 11/29-filling + 1 bunch
- ・ 入射は電流値優先モード（2～3分毎（マルチバンチ時）もしくは20～40秒毎（セベラルバンチ時））の Top-Up モードで実施。
- ・ 蓄積電流 8 GeV、～100 mA

(4) 主な down time の原因

- ・ FCS コントローラ故障によるアポート
- ・ SR RF サーキュレータアークによるアポート

2. 利用関係

(1) 放射光利用実験期間

第1サイクル（4/6（月）～4/23（木））

第2サイクル（5/7（木）～6/6（土））

(2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン

共用ビームライン	26本
専用ビームライン	19本
理研ビームライン	9本
加速器診断ビームライン	2本

第1サイクル

第1サイクル（暫定値）

共同利用研究実験数	184件
共同利用研究者数	818名
専用施設利用研究実験数	143件
専用施設利用研究者数	554名
第2サイクル（暫定値）	
共同利用研究実験数	329件
共同利用研究者数	1,457名
専用施設利用研究実験数	258件
専用施設利用研究者数	1,006名

◎平成27年6～7月の運転・利用実績

SPring-8は6月8日から7月4日までセベラルバンチ運転で第3サイクルの運転を行い、停止期間をはさみ、7月6日から7月31日までセベラルバンチ運転で第4サイクルの運転を実施している。第3～4サイクルの運転・利用実績については次号にて掲載する。

◎今後の予定

8月1日から9月10日まで夏期点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業等を行う予定である。